

1. 学力の現状

(1)【全国学力・学習状況調査の結果・分析より(令和5年4月実施6年生)】から 青枠は全国・県を上回った項目・赤枠は下回った項目

国語				算数					
分類	区分	平均正答率			分類	区分	平均正答率		
		校内	県	全国			校内	県	全国
	全体	70	69	67.2		全体	68	64	62.5
学習指導要領の内容	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.7	71.6	71.2	学習指導要領の内容	A 数と計算	73.0	68.5	67.3
	情報の扱い方に関する事項	62.9	63.2	63.4		B 図形	53.5	51.0	48.2
	我が国の言語文化に関する事項					C 変化と関係	72.9	71.1	70.9
	A 話すこと・聞くこと	76.7	76.0	72.6		D データの活用	72.7	67.5	66.5
	B 書くこと	32.2	28.3	26.7					
	C 読むこと	75.8	72.9	71.2					
評価の観点	知識・技能	69.2	69.2	68.9	評価の観点	知識・技能	70.3	68.4	67.2
	思考・判断・表現	69.9	67.8	65.5		思考・判断・表現	64.1	58.7	56.5
	主体的に学習に取り組む態度					主体的に学習に取り組む態度			
問題形式	選択式	73.7	74.5	73.6	問題形式	選択式	64.5	59.6	57.7
	短答式	65.4	63.0	62.7		短答式	75.9	75.3	74.7
	記述式	59.9	54.2	51.1		記述式	57.0	50.3	47.3

【国語】の結果について
 ○全体正答率は、全国・県を上回っている。
 ○観点別の『知識・技能』『思考・判断・表現』でも、全国・県ともに大幅に上回っている。
 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の内容でも、ほとんどの項目で全国・県を上回っている。
 ○全ての問題で、無回答率が県・全国よりも低い。
 ●言葉の特徴や使い方に関する事項で『送り仮名に注意して、漢字を分の中で正しく使うことができる』の問題で、県・全国を下回った。漢字を正しく使うことに課題がみられる。
 ●知識・技能で『情報と情報との関連の仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる』の問題で、全国を下回った。

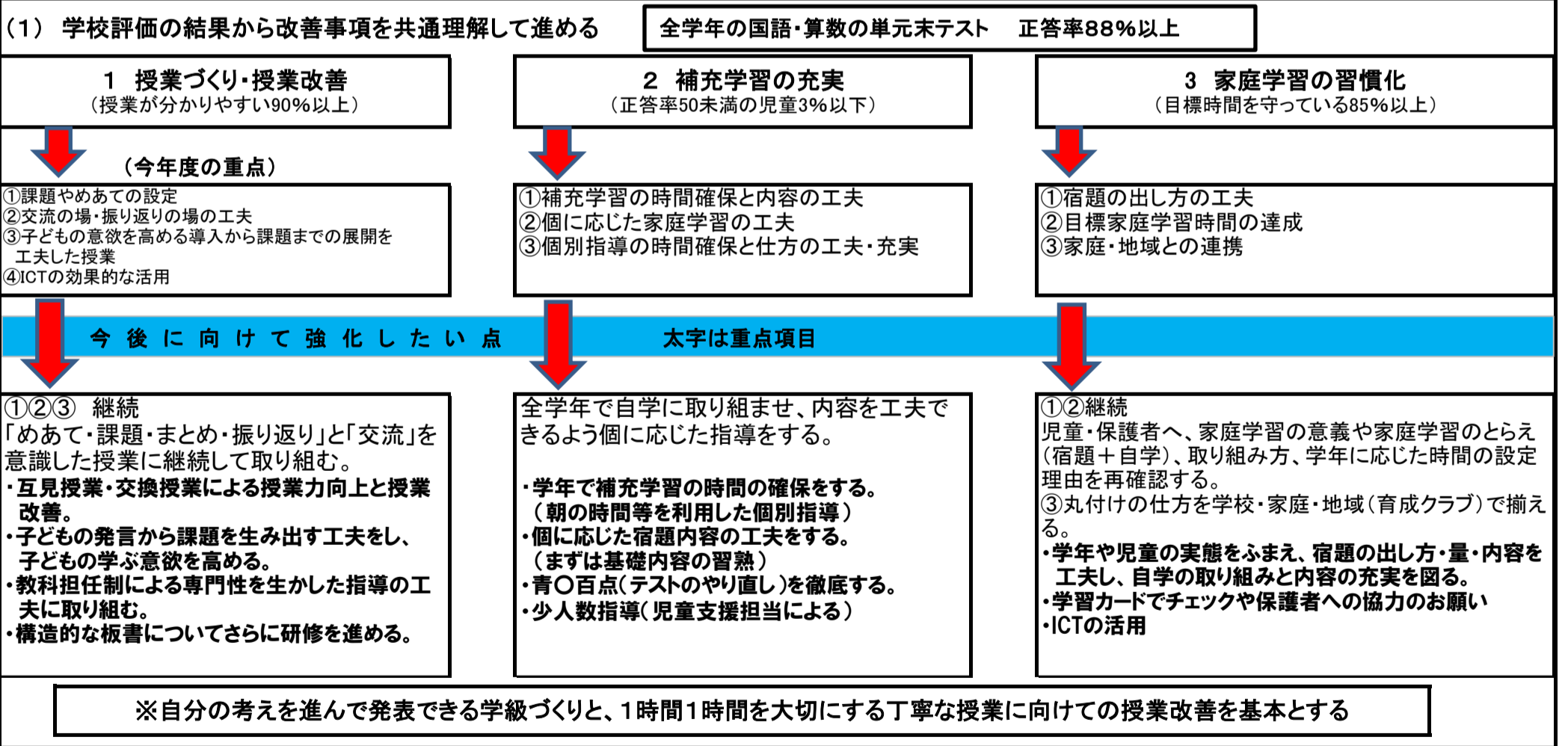
【算数】の結果について
 ○全体正答率は、全国・県ともに上回った。
 ○内容・観点別でも全国・県平均も全ての観点で上回っている。
 ●ほとんどの問題で全国・県を上回っているが、『伴って変わる2つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができる』という『思考・判断・表現』の問題で県・全国を下回っている。思考力・判断力を付けることが必要である。また問題を読み取る力も必要である。
 ●問題については、『正三角形の意味や性質について理解している』という問題の正答率が19.6%である。割合の『知識・技能』が不十分であるので、「図形」に力を入れる必要がある。

(2) 単元末テスト結果から(令和5年度) 3教科の平均(全校集計)

		1学期	2学期	3学期
国語	知識技能	87.4%		
	思考判断表現	87.3%		
	教科平均	87.3%		
算数	知識技能	88.4%		
	思考判断表現	83.3%		
	教科平均	85.8%		
理科	知識技能	98.7%		
	思考判断表現	87.3%		
	教科平均	88.5%		

知識技能は3教科とも力を付けている。算数の思考判断表現に課題がみられる。低学力層3%以下はクリアできている。

2. 学力向上推進計画(学力向上の具体的な取組について)



(2) 学習規律の徹底

- ・授業のあいさつ、「話し方・聞き方あいうえお」、「声のものさし」を全学年で統一し、学びに向かう姿勢を揃える。
- ・南小と共通の「家庭学習のすすめ」を配布し、学習用具や持ち物、家庭学習の仕方を統一して指導。
- ・朝活動や朝の会等の内容を見直し、授業開始時刻を守り、授業時間の確保をする。

(3) 小中一貫した授業力向上と校内研究体制の充実による授業改善

- ・「板書交流会」「互見授業」「交換授業」を通して、よりよい校内実践に学び、日常の授業の改善を図る。
- ・小中での授業展開や指導方法の工夫の共有、若手教員の育成。小中の互見授業。
- ・年2回の合同研修会と部会研修を通して、学力と家庭学習の状況の分析と授業改善の方向性の確認。